文節と単語

・**文節**…文を、自然な発音や意味となる範囲（はんい）でできるだけ短く区切ったまとまり。

（例）鳥が（文節）／ネ 青い（文節）／ネ 空を（文節）／ネ 飛ぶ。（文節）

・**単語**…それだけで意味をもつ最も小さい言葉の単位。

（例）鳥（単語）／が（単語）／青い（単語）／空（単語）／を（単語）／飛ぶ（単語）。

文節はいくつかの単語からできており、文節の初めの単語は必ず**自立語**である。文節には必ず**一つだけ**自立語が含（ふく）まれる。

→つまり、文を文節に区切るときは、自立語の前で区切るとよい。

（例）［鳥］（自）が／［青い］（自）／［空］（自）を／［飛ぶ］（自）。

文節には、次の場合がある。

・「自立語」単独の場合
・「自立語」に付属語が付く場合

一つの文節に二つ以上の自立語が含まれることはないが、付属語は二つ以上含まれることもある。

（例）走らなかった…自立語「走る」＋付属語「ない」＋付属語「た」

間違（まちが）えやすい文節の区切り

~て（で）…

「~ている」「~てくる」のように、「助詞て（で）＋自立語」の形は、文節の切れ目を間違えやすいので注意する。

（例）［彼］は／［本］を／［読ん］で／［いる］。

※「読んでいる」は「読んで」（自立語＋で）と「いる」（自立語）の二文節

犬が／走って（動詞＋て）／くる（動詞）。

吾輩は／猫で（名詞＋で）／ある（動詞）。

これを／見て（動詞＋て）／ほしい（形容詞）。

確認テスト

(1) 次の文の内容が正しければ○で、誤っていれば×で、それぞれ答えなさい。

① 一つの文節には、必ず自立語が一つ含まれる。
② 一つの文節に、自立語が二つ以上含まれることもある。
③ 一つの文節には、必ず付属語が一つ含まれる。
④ 一つの文節に、付属語が二つ以上含まれることもある。

①[　　] ②[　　] ③[　　] ④[　　]

(2) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線(しゃせん)(／)で区切りなさい。

(例) [鳥]が／[青い]／[空]を／[飛ぶ]。

庭に美しい花が咲いた。

(3) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線(／)で区切りなさい。

(例) [鳥]が／[青い]／[空]を／[飛ぶ]。

課題が残っている。

(4) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

明日の準備をしておく。

(5) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

新しいスポーツをやってみる。

(6) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

もっと文法を学んでほしい。